

## 2021年10月果実概況

月の前半は全国的に高温、後半は低温だった。北日本日本海側は多雨、西日本は日照量が多かった。

「暑さ寒さは彼岸まで」というが、10月は広範囲で暑さは残り、朝晩と日中の気温差は大きくスッキリしない天候が続いた。季節はゆっくりと進んでいたが、下旬には気温は急激に低下して12月並みの気温を記録した。

全体入荷量は前年比89%、価格394円(前年比105%)。「みかん」は各産地順調な生育状況が続き、「極早生みかん」が中旬よりピークに入り前年より増えた。「りんご」は「早生ふじ」が中心となり、早生種全体が多くなる。「柿」は前進出荷が続き、「たねなし柿」中心だが、「早生富有柿」「次郎柿」の販売も中旬から始まった。今年度の「いちご」は静岡産に引続き、栃木産の販売が始まり、西洋梨については下旬に山形産「ラ・フランス」の販売が始まった。

**みかん類**は、入荷94%、価格210円(87%)。各地目立った豊作基調で前進出荷となり平年並みに仕上がるが、コロナ禍の影響も残り、「極早生みかん」は販売苦戦。肥大は良く前年に比べ若干大きく、価格安で推移した。

**りんご類**は、入荷74%、価格338円(113%)。「早生ふじ」を中心に中生種が順次始まった。春先の低温・雹害により出荷量は各地減少傾向で進み、8月以降の気温低下により着色先行だったものの、仕上がりは良かった。

**日本なし類**は、入荷93%、価格435円(92%)。新潟・福島産は4月に発生した霜害の影響、大分産も開花時の天候不良により数量は大幅減となったが、前進出荷が続いた栃木・茨城産については高温による品質不良で少なかった前年より上旬は増加したが中旬以降減少傾向に入る。総入荷量は微減に留まる。

**西洋なし類**は、入荷102%、価格435円(109%)。山形産「ラ・フランス」は10月21日よりエチレン品、予冷品は25日からの全JAの販売開始となる。着果数は少ないが、生育順調で収穫時期が若干早まり10月下旬の出荷量は平年に比べ多く前年に比べ大玉傾向のなか販売。

**かき類**は、入荷92%、価格305円(105%)。平年に比べ天候は良く気温は平年に比べ低く推移した。着色先行の気候が続いたことから出荷は前倒しに。「たねなし柿」は和歌山産が初荷早々から多くピークも早く迎えたが、新潟・山形産については春先の天候不良により出荷量は減少。「富有柿」についても着色は早く、各地大玉傾向。「次郎柿」は春先の雹害で枝折れがあり、前年比減。

**ぶどう類**は、入荷99%、価格1,630円(108%)。岡山産「ピオーネ」の出荷ペースは例年より早く、上中旬までは前年比増と進も下旬からは減少から終盤に、長野産「巨峰」「ナガノパープル」は曇雨天の影響を受けて出荷量減少。「シャインマスカット」の出荷は8月以降の天候不順を受けて、糖度の上がり鈍かったため出遅れたが、10月まで潤沢な出回り。

**くり**は、入荷62%、価格752円(116%)。主力茨城産は前進出荷を受け9月の販売量が多くなり、10月の販売量は豊作基調も、前年に比べ少なくなった。平年よりも気温が低かったことから販売は好調だった。

**いちご類**は、入荷292%、価格2,630円(85%)。10月中旬から栃木・静岡産の出荷がスタートした。本年度の育苗・定植期間の天候による被害が懸念されていたが、問題なく生育が進み潤沢な出荷量から始まる。

メロン類は、入荷 74%、価格 609 円(113%)。北海道産メロンは作付減少と生育前進を受けて数量 3 割減。静岡・茨城産も作付減少、さらに 8~9 月の長期間の曇雨天の影響で生育は鈍く下等級品の比率が高まり、出荷量は減少した。